

(2) 第6期計画の振り返りから見た課題

アンケート調査から見える課題のほか、第6期東郷町高齢者福祉計画の振り返りからみた第7期東郷町高齢者福祉計画策定に向けた課題は下記のとおりです。

①医療と介護の連携強化

平成29年7月、豊明市にある豊明団地集会所に、医療介護の連携拠点となる「豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし」を設置しました。在宅で生活する医療の必要な高齢者が、専門職の連携不足により不必要な入退院を繰り返すことで、在宅生活を継続できなくなるようなことがないよう、医療と介護の専門職が連携し支えていく必要があります。

また、電子連絡帳の効果的な活用や、在宅ケアを考える会の内容を充実させ、職種の違いからできる垣根の解消に努めるとともに、町内の事業者がかけはしとの連携を推進できるよう支援していく必要があります。

②新規設置を検討する事業者への市場調査依頼

平成26年度には4か所であった有料老人ホームが、平成28年度には8か所となり、入居戸数が増えましたが満床には至っておりません。東郷町では持ち家率が高く、自宅での生活継続を希望される方も多いことから、有料老人ホームを新規設置しようとする事業者には、入念な市場調査を依頼し、慎重に対応していく必要があります。

③東郷町防災計画との連携

平成27年度から、要支援者本人又はその家族などの申請に基づき、支援が必要な方の名簿を町が作成し、災害時に警察、消防、地区、民生委員等との情報共有のもと、避難誘導や安否確認などの支援を行えるようにしました。しかし、ひとり暮らしの方や高齢者のみの世帯すべてが同意しているわけではなく、また、登録を希望した高齢者についても、避難先で介護や医療を必要とした場合の対応策など関係部署等と検討していく必要があります。

④介護予防・日常生活支援総合事業の推進

平成28年7月から、介護予防・日常生活支援総合事業を開始しました。利用者の介護予防や自立した生活につながるようサービスの見直しや整備を行うとともに、住民主体の通いの場や支え合いにつながるよう生活支援体制整備事業と合わせて町全体の地域づくりに取り組んでいく必要があります。

⑤認知症支援の更なる充実

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を設置し、早期診断・早期対応できるよう支援体制を整備し、その活動を充実させていく必要があります。

また、認知症の人やその家族が適時適切なサービスや支援につなげられるよう様々な活動の周知啓発を行っていきます。さらに、地域全体で認知症の人を見守り、支援していけるよう、認知症に対する正しい知識や対応についての普及啓発に継続して取り組んでいく必要があります。

⑥地域支え合い協議体と関係機関等との連携強化による地域づくりの推進

多様化する生活支援、集いの場の充実や移動困難者への対応について、フォーマルサービスだけでなく、インフォーマルな支援を充実させ地域全体で支え合う体制づくりが必要です。情報共有、問題解決に取り組んでいくため、地域支え合い協議体では地域支え合いコーディネーターとともに、住民や行政における関連部署始め民間企業を含めた地域の様々な関係機関と連携していく必要があります。

⑦ケアプランチェックによる介護給付費適正化事業の充実

介護保険は自立のための支援をする制度です。適正なサービスの提供のため、定期的にケアプランを点検し、介護サービスの給付状況を分析します。

また、その分析をもとに不適切なケアプランには指導・助言を行い、プラン作成の改善に努めるとともに給付の適正化につなげ、自立に向けた支援がサービスに頼りすぎないように、ケアマネジメントに対する意識をそろえる必要があります。

⑧地域密着型サービス事業所（入所・通所）の利用促進及び地域の拠点としての活用

地域包括ケアシステムの充実を図るために、現存する地域密着型サービス事業所を利用促進することが大変重要になっています。地域の拠点として介護予防教室などの開催を検討していくとともに、地域に根差した、安心して通える施設としてさらに活用できるよう事業所と連携し、住民への周知啓発を含めて事業内容を検討する必要があります。

⑨高齢者虐待の防止対策の充実

高齢者虐待の相談件数は年々増え、その要因は多様化しています。そのため、虐待を未然に防ぐ施策を充実させていく必要があります。